2017年6月15日

核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会 会報

2017.6.15
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話　076-442-8000

当会主催・夏のイベントのご案内

原爆パネルの展示もあります

アニメ映画「風が吹くとき」上映会

とき　**8月11日（金・祝）**
午後１時30分～午後４時

会場　**タワー111**
3F スカイホール

参加費　無料

後援　富山県保険医協会
富山県被爆者協議会

<あらすじ>
主人公は、イギリスの片田舎で年金生活をおくっている老夫婦。しかし、世界情勢は日に日に悪化の一途をたどっていた。ある日、戦争が勃発したことを知った夫婦は、政府が発行したパンフレットに従い、保存食を用意したりシェルターを作るなどの準備を始める。
そして突然、ラジオから3分後に核ミサイルが飛来すると告げられる。命からがらシェルターに逃げ込んだ夫婦は爆発の被害を辛うじて免れたが、互いに励まし合いながらも放射線に蝕まれ、次第に衰弱していく…

いま戦後もっとも危険な時代

英国のＥＵ離脱、アメリカファーストのトランプ政権、欧米各国で広がる自国最優先の潮流が世界平和に影を落としています。安倍首相は、北朝鮮の核ミサイル外交への米国による先制攻撃をやめろとは言えないと国会で答弁し、その報復が日本に及ぶことを否定しませんでした。私たちは戦後もっとも危険な時代を迎えていると言っても過言ではありません。

吹き替えは森繁久彌、加藤治子

この映画には日本語監修を大島渚、主人公の夫の声を森繁久彌、奥さんを加藤治子、主題歌はデビット ボウイと錚々たる人たちが関わっています。悲惨な場面がほとんどなく、ご家族・子供さんたちと安心して鑑賞できますが、見終わった後に心にズシンとくるものがきっとあると思います。

主な内容

●世話人名簿、「核兵器廃絶への思いの原点は？」新世話人に聞きました……２～４
●故黒部信也先生を悼む　……４
●富山で被爆２世の会、立ち上げへ　……５
●世話人会で共謀罪強行に抗議声明、「泊事件が語ること」……６～７

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会世話人会

昨年の総会において新しく７名の先生方を世話人会に迎えました。今後ともよろしくお願いいたします。

■世話人代表

金井　英子　（砺波市・金井医院・小児科）

■世話人副代表

小熊　清史　（魚津市・小熊歯科医院・歯科）
小栗　絢子　（高岡市・小栗小児科医院・小児科）

■世話人

	太田　真治	（高岡市・おおたファミリー歯科・歯科）
新	川瀬　紀夫	（入善町・川瀬医院・内科）
新	高田　良子	（富山市・高田医院・内科）
	塚田　邦夫	（高岡市・高岡駅南クリニック・外科）
新	寺西　高子	（富山市・老人保健施設レインボー・小児科）
新	花崎　広子	（射水市・真生会デンタルクリニック・歯科）
新	山下　泉	（砺波市・桐沢医院・眼科）
	山本　美和	（富山市・富山協立病院・内科）
新	吉田　耕司郎	（高岡市・吉田内科小児科・内科）
新	吉田　徹	（富山市・二杉歯科医院・歯科）
	与島　明美	（富山市・富山協立病院・内科）

新世話人にお聞きしました

●先生の核兵器廃絶への思いの原点はどんなことでしょうか
●福島原発事故について「これは許せない」と思うこと
●何か関心をもっていることは

広島平和記念資料館で感じた強い思い

入善町・川瀬医院
川瀬　紀夫

昨年から世話人として参加させていただきました。よろしくお願いします。

数年前になりますが、広島平和記念資料館に行く機会がありました。原爆による計り知れないほどの大きな犠牲の記録を目の前にして、2度と繰り返されてはならないと強く思いました。被爆国として核兵器に反対しない政権には疑問を感じざるを得ません。核兵器廃絶は容易ではない道かもしれませんが、訴え続けていくことが最も重要なことだと思います。

平成26年7月に解釈改憲によって集団的自衛権の行使容認が閣議決定されました。多く

の憲法学者が違憲として反対する中で、平成27年5月に安全保障関連法が国会で強行採決されました。これは日本が米国とともに他国で戦争できる国になることを意味します。

元内閣官房副長官補で国防に関わった柳澤協二氏は「抑止力の向上に依存した平和は軍拡競争を招く」と指摘しています。また自衛隊員の戦死やテロのリスクも指摘されています。

これまで私たちは先人の努力によって維持されてきた平和を当たり前のように享受してきました。この平和を維持していくためには、政府の言うことを鵜のみにせず、正しい知識を得て、意見を持つ必要があると思います。

先日、鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「小さき声のカノン」を見ました。福島原発事故後の避難住民の方々、特に子を持つ母親たちの選択、そしてチェルノブイリ原発事故後のベラルーシの取り組みを丁寧に取材しています。ベラルーシでは現在、年間被ばく線量1mSv以下を基準としているそうですが、福島原発事故では年間20mSv以下で避難解除地域とされました。将来基準は下げていくのかもしれませんが、本当に妥当と言えるのでしょうか。もっと安全を期すべきなのではないでしょうか。地震大国で現在、原発再稼働が推し進められています。私はこの政策にも反対したいと思います。

未熟な人類は核兵器を持ってはいけない

富山市・老健施設レインボー

寺西　高子

今でも世界のあちこちで紛争が起こっています。問題を武力で解決しようとしています。まだまだ、人類は未熟です。そんな人類は核兵器を持ってはいけないと思います。

先日、「二人の桃源郷」という映画をみてきました。電気も水道も通っていないそんな山で暮らした老夫婦の25年間のドキュメントです。「最後まで山で、最後まで二人で」という願いを、最後は家族が支えます。

その映画をみながら、福島では、汚染され「最後までここで」という思いを断たれたお年寄りがどれだけいただろうかと胸がいたみました。

水橋9条の会を10年余りやっています。継続が力になっていないようですが…。人類はもっと成熟して、問題を武力ではなく、話し合いで解決するようにならなければならないと思います。9条を守り、そして世界にひろげたいです。

原爆被害の伝承は大切

射水市・真生会デンタルクリニック

花崎　広子

昨年参加したイベントの飯田氏の講演に感銘を受けた。現実にあったことであり、今後も起こり得ることであると思った。被害者の伝承は大切だと思った。

今後もし同様の事故が起きた時に、今回のような混乱が起きないような対策が新たに立てられているとは思えないところ。

低線量被ばく問題について興味があります。でも、参考になる事例が少ないようで、今後の研究を待たねばならないことが多いようです。

子供たちが安心して暮らせる地球を残したい

富山市・二杉歯科医院

吉田　徹

この度、世話役の一人とさせて頂きました吉田徹と申します。思いがけないお誘いで、迷いはありましたが、原子力発電所の再稼働がフリーパスになっている現状を考え、一人でも多くの人間が批判の意思表示をする必要があると考えたのです。

まだ放射能汚染が残っているのに、基準を平気で変更して安全宣言をするなど信じられない事がまかり通っていることに、憤りを覚えます。将来を担う子供たちの事を何も考えていないのではないでしょうか？

唯一の被爆国、日本が核兵器廃絶に背を向けるような事を行い、諸外国からも驚きの目で見られている事に何とも言えない寂しさを感じます。国家間の駆け引きの中では、個人の発する反核への叫びは、あまりにも無力である事は承知しています。私自身最近まで、仕方がないな…と見て見ぬふりをしておりました。でもこれではだめなのですよね。カラ元気でもよいから、声を出さなくては！

数年前、あるテレビ番組で元ソビエト連邦の書記長を務めていたゴルバチョフ氏が、「核兵器は絶対になくさなくてはなりません、そのためには被爆国日本のみなさんの上げる声が何よりも大切です」とおっしゃっていた事を思い出しました。

子供達に、安心して暮らせる環境を整え伝えていくのが大人の役目だと思います。自分たちの代だけ好き勝手に地球を貪り、あとは知らないよ、ではあまりにも無責任だと思います。

私一人はとても非力ですが、皆様のお力をお借りして、少しでも声を上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

原爆は今後二度とあってはならない

富山市・高田医院
高田　良子

人が人を危める事は絶対悪！

ましてや原爆にて一瞬のうちに多くの人間の命を奪った行為は何時にあっても許されるものではない。戦争という名のもとで大国の言いなりになっている。今後二度とあってはならない。

だが、何故にまだ高度な原子爆弾の研究をしているのか？美しい地球、未来の子供達に人類の英知をもって「平和共存」が出来ないものか？

原発そのものの安全性が確保されていない

後手に回る対応の悪さ、今後の解決の見通しの暗さ、補償の薄さ、多くの住民の苦しみは計り知れない。現在稼働している原発でさえ予期せぬ事故に速やかに対応できるかと問うたら否だろう。代替エネルギーを考えて欲しい。

子供達に「生と死」「戦争と平和」を家庭教育、教育現場で培って欲しい。

最上の原発事故被害防止策は「廃止」すること

高岡市・吉田小児科内科
吉田　耕司郎

福島第一原発のメルトダウンは今も収束しておらず、放射性物質を放出し、生活環境を通して住民の低線量被曝が続いています。また当地では北陸電力志賀原発で臨界事故を隠し2007年に露呈するまで8年運転を続けていました。その上、敷地内の活断層を指摘されたことを無視するように再稼働を目指しています。

ドイツそして台湾では長年にわたって論争を行い、最上の被害防止策として原発廃止に向かっています。これ以上の原発事故、核廃棄物による被害を防止するためには粘り強く呼びかけて、国民レベルの議論を行うことで国の政策を変えることです。広島、長崎の被爆者が訴え続けてきた運動を教訓として受けつぎ活かしていくことです。

追悼　黒部信也先生を偲んで

副代表、魚津市・小熊歯科医院
小熊　清史

本会の副代表を長く務められた黒部信也先生が昨年十二月二十四日、お亡くなりになりました。先生とは、設立当初から世話人として一緒に活動させていただきました。

先生は、私の地元で開催される「しんきろうマラソン」の常連でした。どこかのマラソンに参加したときには、自作の反核のゼッケンをつけ、出番を待つ間に核兵器廃絶の署名集めをしておられたこともあったそうです。もともとスポーツ好きなのかと思ったら、そうではなくて、若かりし頃は、むしろ苦手だったと聞いたことがあります。

二〇〇一年、アメリカ同時多発テロの二か月後に発行された本会の会報に、一文を寄せておられます。日本敗戦の直前、十五歳だった信也少年は、特攻隊に志願してアメリカの航空母艦に体当たりしようと覚悟していた、とのことです。戦争は人間を狂気に誘います。

このような過去を乗り越えて、「核兵器をなくす、戦争に反対する」という運動に心底から尽力されました。

戦前・戦中世代の先輩には、頼りがいのあるリーダーがたくさんいて、それに頼りすぎて、子分・弟分の気分が抜けません。ちかごろ、先輩を見送ることが多くなりました。そろそろ自立して、後の世代に引き継いでいかねばなりません。

しっかりやってね、頼みましたよ、という声が聞こえるような気がします。

2005年、NPT再検討会議が行われたニューヨークで署名に取り組む黒部先生

被爆体験をいかにして後世に伝えるか

被爆二世の会発足をめざして

世話人代表　　金井　英子

父は被爆者

私の父は広島市皆実町暁第16710部隊で被爆しました。爆心地から2kmです。8月8日から約1週間皆実町1丁目一帯に於いて爆死者を処理し夜は野営を行った、と被爆者手帳に記載してありました。父は42歳で脳血栓を発症し左片麻痺となり、その後、骨髄線維症となり62歳で亡くなりました。私は被爆二世です。

富山県被爆者協議会の田島正雄氏から、「被爆者は皆さん年を取られて、もう活動ができなくなってしまった。どうか被爆二世の方たちで助けて頂くことはできないでしょうか？」と痛切なお願いを受けました。

私は高岡市の二世の方と二人で田島さんとお会いして、「被爆二世の会を立ち上げましょう」と決断しました。6月中旬に参加できる方だけ集まって、食事をしながら現状と今後の事を相談する事になりました。

被爆者を訪ねてお話しを聞く

被爆者名簿で見ると私が住む砺波市には被爆者の方が4名おられます。そのうちの岸川さんという方は数年前に私たちの会で被爆体験をお話して頂いています。私はその時に彼の自宅から会場まで私の車でお連れしました。で、彼の家族が協力して下さるかもしれないと思い彼を訪ねました。お花が綺麗なお宅でした。彼は家におられましたが、賑やかな奥様の姿が見えません。

「奥様は？」と尋ねると、昨年秋に亡くなられたとの事。「連れ合いに死なれるちゃ寂しいもんやちゃ。私は水曜日だけはデイサービスに行っとるがや。足腰が弱って一人で風呂に入られんから風呂に入ってくるがや。若いもんはおるけど、仕事が忙しくて朝早く夜は遅いから殆ど話はせんちゃ。」と寂しそうでした。耳が少し遠いそうですが、自分の考えはしっかりとお話されました。

「家では原爆の事は殆ど話した事がない。私は8月9日に広島に入った。川には死体が浮いており、夏なので臭いが酷かった。帰ってきてからは毎晩原爆の夢を見た。戦争は絶対にしてはいかん。安倍は9条を変えようとしているが変えたらいかん。今の若い人は自由で、こんなに良い時代はない。被爆者は140人くらいいたが今は60人くらいやろう。二世の方に引き継いでもらうしかない。二世も健康診断を受けんとダメや。戦争は二度としてはいかん。私の力は小さいからどうにもならん。あなた方が引き継いでいって下さい。」

御年95歳ながら、彼の心の中には今も原爆への怒りが燃えている事を感じました。背中に大きな背嚢をドスンと乗せられたようで、重さに喘ぎながら帰りました。

参加のハガキを受け取って

翌日は別の2名の方を訪問しました。Mさんは耳が遠いものの、何とか玄関まで歩いて出てこられ、私の訪問の趣旨は理解して頂けました。息子さん二人は遠方におられるので協力出来ないが、一人は奈良で二世の会に入り活動しておられるという事でした。

もうひと方はNさん。玄関のチャイムを押すと、横の部屋の窓から「おー」と呼ばれる声がしたので、窓を開けてご挨拶しました。お洒落なシャツを着てベッドに寝ておられました。「被爆二世の会を立ち上げたい」という案内状をお見せすると、眼鏡も掛けずじっと読んで下さいました。

「息子が氷見で学校の先生をしているので、息子に渡しておきます。」と言われました。帰り際、私の顔を間近でじっと見つめられました。優しい目でしたが、「私はもう何もできないが、後を頼む」と語っておられるように感じました。翌々日、彼の息子さんから「参加」という葉書が届きました。

消えかかっている被爆者の命の灯

原爆の生き証人である被爆者の命の灯はもう消えかかっているのだ、という事を痛感し、その思いを伝えてゆく難しさと重みを感じました。少しばかり勇気を出して岸川さんたちを訪問したことが、私に大きな力を与えてくれました。

安倍政権の「共謀罪」強行に抗議声明

組織的犯罪処罰法改正案、いわゆる「共謀罪」について与党（自民・公明）は、委員会の採決を省略し、6月15日早朝の参院本会議で「中間報告」（＊）を行った後、強引に成立させました。（維新も賛成）

ただちに当会世話人会は抗議の意思をまとめ、下記声明文を首相官邸、内閣官房、法務省に送付しました。

市民を監視し、民主社会を萎縮させる「共謀罪」の採決強行に抗議する

「共謀罪」の趣旨を含んだ組織的犯罪処罰法改正案（以下、共謀罪）が、参院委員会採決を省略し、六月十五日の参議院本会議で強引に可決・成立させられたことに当会として強く抗議の意を表明するものです。

この共謀罪は、「話し合っただけ」「合意しただけ」でも処罰することができ、「犯罪は実行行為であり、内心は処罰しない」という近代刑法の根本原則に反するものです。国会で、まじめな市民団体の活動も捜査の対象となり得るのではないかとの質問に、監視や捜査の対象となりたくなければ、政府に対し従順で反対意見を言わない市民になりなさい、と言わんばかりの答弁には憤りを禁じえません。

権力による濫用が懸念される共謀罪が、まさに権力の濫用によって成立したという動かしがたい事実がその本質を表しているのではないでしょうか。モノ言えぬ国民総監視社会をつくる、現代版の治安維持法であり、憲法が保障する「思想・信条の自由」「表現の自由」「通信の秘密保護」「信教の自由」を侵害する違憲性は明らかです。

われわれはこの共謀罪の廃止を求めると同時に、引き続き核兵器の廃絶に向けた取り組みや原子力行政の危険性について萎縮せず発信していくことを誓うものです。

二〇一七年六月十六日

核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会世話人会

世話人代表　金井　英子

県内の医師ら67人「共謀罪」反対表明・官邸などに声明送る

「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法が十五日に成立したことを受け、県内の医師ら六十七人でつくる「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」（富山市）は、「市民を監視し、民主社会を萎縮させる『共謀罪』の採決強行に抗議する」と声明を発表した。十六日にまとめ、十九日に首相官邸と内閣官房、法務省に送った。

声明文では「『犯罪は実行行為であり、内心は処罰しない』という近代刑法の根本原則に反する」と指摘し「捜査対象になりたくなければ、『政府に反対意見を言わない市民になりなさい』と言わんばかりの答弁」と政府を批判。「権力による乱用が懸念される共謀罪が、権力の乱用によって成立した事実がその本質を表している」と訴えている。

（木許はるみ）

北陸中日新聞　7月20日付

●政府・与党は「共謀罪」法案の、①心の中をどう処罰するのか、②一般人を対象とする可能性はないのか、③テロ対策は口実に過ぎないのではないか、という国民の疑問にフタをしたまま多数決で押し切った。

●その背景には、加計学園問題で窮地に立たされている安倍首相を守るため、一刻も早く国会を閉会したいという事情があったと伝えられている。

●姑息な手段も厭わない、権力のしたたかさと醜さである。

＊中間報告

衆参両院の委員会で審議中の法案に関し、委員長らに本会議で報告を求めること。大半は委員会採決が省略され、ただちに本会議で採決される。野党議員が委員長で法案採決に応じない時、用いられるケースが多い。会期末に法案成立を狙う与党が主導するのは「議会制民主主義の否定につながる禁じ手だ」との批判がある。

核兵器禁止条約、日本政府はなぜ反対？

ローマ教皇のメッセージが流れる交渉会議（3月27日）

核兵器の使用を法的に禁止する条約の交渉会議が6月15日、ニューヨークの国連本部で再開されました。しかし日本政府は、唯一の被爆国でありながらこの会議に参加しませんでした。

じつは昨年10月27日の「…交渉会議を開催する」という決議に日本は反対しています。

決議のポイント

- あらゆる核兵器使用がもたらす破滅的な人道的結末を深く懸念
- 核兵器なき世界実現のため、法的拘束力のある追加措置が必要
- 核兵器を禁止する法的拘束力のある文書について交渉する国連会議を2017年に開催
- 会議は3月27～31日と6月15日～7月7日にニューヨークで国連総会の規則に基づき実施

米国の「核の傘」に頼る矛盾が露呈

今年3月27日の交渉会議初日に、日本政府代表として演説した高見沢大使は「建設的かつ誠実に参加することは難しい」と不参加を宣言していました。

安倍政権がこの会議に欠席する理由は、公式には「NPT体制を弱体化させ核保有国と非保有国との亀裂と分断が深まる」というものです。しかし本音はトランプ政権が核戦力の増強を示唆しており、北朝鮮の脅威への対応において、トランプ政権の意に沿わない行動を控えることを何よりも優先するためではないでしょうか。また韓国やNATO諸国など、米国の核の傘に依存する国々がこの条約に慎重姿勢をとっていることも背中を押していると思われます。

限界にあるNPT体制

しかし北朝鮮の核開発は、2006年以降核実験とミサイル開発が続き、わずか10年で核保有国となりましたが、その間米国の核の傘が抑止力とはなりませんでした。

また核廃絶はNPT体制の下ですすめるべきという議論がありますが、保有国に対する強制力も罰則もないため、40年経っても遅々として進まない米ロ核軍縮交渉やインド、パキスタン、北朝鮮など保有国が増えている現状など、NPT体制の核保有の不平等が逆に国際情勢の不安定を生み出しているのではないでしょうか。

日本政府欠席も松井広島市長が発言

現在交渉会議で議論されている「核兵器禁止条約」草案には、前文で「被爆者の苦しみに留意する」と明記され、核兵器は国際人道法に違反するとして、いかなる状況でも核兵器の開発、製造、取得、保管、実験、使用を禁じています。

発言する松井一実広島市長

出席した広島市の松井一実市長は、原爆の惨禍を生き延びた被爆者が長年、後遺症に苦しんだり、健康不安に悩んだりしながら核兵器廃絶を世界に訴えてきたことを紹介。「被爆者は存命のうちに核兵器禁止を見届けたいという願いを持っている」と訴えました。

この禁止条約交渉は、これまで核保有国の善意に依存していたため悪くなる一方の核兵器環境に、もう待てないと世界の圧倒的多数の非保有国が敢然と立ち上がったものです。核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会は、この条約交渉に唯一の被爆国である日本が参加することを望みます。

2016年のイベント報告

映画「父と暮せば」上映と被爆者の講演のつどい

会場には130人が来場

講演する飯田國彦さん

２０１６年７月３１日、核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会（以下、核兵器廃絶医師の会）は映画「父と暮せば」上映と被爆者の講演のつどいを開催しました。これには富山県被爆者協議会と富山県保険医協会が後援しました。

会場となったタワー１１１（富山駅北）のスカイホールには１３０人が来場し、ヒロシマの原爆投下の悲惨な実相と真正面から向き合いました。

司会を核兵器廃絶医師の会の小栗絢子世話人副代表が務め、主催団体を代表して金井英子世話人代表が挨拶をしました。

映画「父と暮せば」は、原爆投下後の広島を舞台に、生き残った負い目に苦しみながら生きる娘と、幽霊の姿で現れた父との心の交流を描いた人間ドラマで、原作は井上ひさし氏が書いたものです。

登場人物の心のふれあいを中心に物語は静かに進みますが、その根底には原爆にたいする怒りと悲しみが色濃く反映されています。

映画上映後、県被爆者協議会会長の田島正雄氏が挨拶され、会員の高齢化によって被爆体験を若い世代に伝えることが難しくなっていると訴えました。

その後、ヒロシマで３歳で被爆した飯田國彦氏が、当会の企画としては２年ぶりとなる講演を行ないました。飯田氏は今後の人生を被爆証言にかけるため、この年の春、富山から広島に移り住み「語り部」として活動されています。今まで悲惨な被爆体験を一部オブラートに包むように話していたが、ありのままに話すようにしたと述べ、自身の凄惨な体験や、春の米大統領の広島訪問の意義などお話しされました。

会費納入のお願い

私たちの会の活動は、会費によって支えられています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに今年度会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、ＦＡＸまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費　５，０００円（毎年７月が期首）
◇振込方法
「郵便振替票」をご利用下さい

編　集　後　記

・安倍政権による特定秘密保護法、安保法制、そして共謀罪。共通しているのは法の定義があいまいなことだ。
・何が特定秘密なのか明らかにせず、閣議決定で憲法解釈を一方的に変更、今度は行為以前の、国民の心の中を処罰の対象にした。
・いったん成立すれば、法律は政権が変わっても効力は続く。日本でも、いま世界を席巻する自国第一の極右勢力が台頭し、これら危険な道具を手にするとも限らない。
・その時になって後悔しても遅い。悪法を運用させない国民運動が必要だ。（Ｓ・Ｍ）